

相談室だより

Vol.4

令和3年 5月27日

心の教室相談員 阿部 聖

心の教室相談員 本田大稀

スクールカウンセラー 花田英介

雨が多いこの季節。外を歩いていても、鳥や虫の声があんまり聞こえてこなくてふと静かさを感じる瞬間ってありませんか？小さい頃は下校時によく感じていました。一方で、道端のあじさいが毎日少しずつ色づいていく様子を見ることができるのもこの季節だけ。みなさんは「梅雨ならではの楽しみ方」ってありますか？



〈話を“聞く”・“聴く”ということ〉

天候も崩れやすく、忙しい毎日が走り去っていく季節。日常の小さな息苦しさを減らす参考になればと思うお話です。「人の話は『聞く』のではなく『聴く』ことを心掛けましょう」なんて言われたことはありませんか？

なんとなく分かってはいても、難しいですね。なにより、人の話を『聞く』ことができる前提の表現です。

「聞」という字は、人の声や音が「意識していなくとも耳に入ってくる」時に使われます。

- ・後ろで物音が「聞こ」えた気がした
- ・夕暮れ時に遠くの方で鳴っているチャイムを「聞く」 …等

「聴」という字は、人の声や音を「すすんで理解しようと耳を傾ける」時に使われます。

- ・相手の思いや考えをしっかりと「聴く」
- ・好きなアーティストの曲を「聴き」ながら掃除する …等

※ちなみに、英語だと「聞く」が“hear”で、「聴く」が“listen”と説明されます。

「人の話を『聴く』こと」を難しく感じている人、なんだかよく分からないという人、まず人の話を『聞く』ことを意識してみましょう。（それは、「待つ」ことに似ているかもしれませんが。）自分の考えを押し付けず相手の話を最後まで「聞く」（「待つ」）ことは、相手との会話のキャッチボールを丁寧に行うということ。それだけで十分にすばらしいことです。『聴く』ことに挑戦するためにも、まず『聞く』ことに慣れてみましょう。

〈花田先生(スクールカウンセラー)の来校日〉



6月 3日(木), 17日(木) です。

お待ちしております。

